



綾瀬市記者発表資料

令和8年2月19日発表
市民環境部 市民活動推進課
市民共創・多文化共生担当
Tel.0467-70-5640

資料 1-1 令和8年度当初予算案と主要事業（「育てる」に対する政策）

かながわ綾瀬のへそ祭り【新規】

（予算の概要 P.19）

◆ 予算額 19,834千円

◆ 趣旨

「綾瀬市は神奈川県のおぼ真ん中」をテーマに、市が持つ歴史文化の物語を伝え、来訪者に綾瀬の魅力を感じてもらえる祭りを開催します。将来的に市内の商業活性化につながるイベントを目指します。

◆ 概要

日時 令和8年5月23日(土) 午後2時から午後6時まで（予定）
場所 あやせノーブルスタジアム（光綾公園：深谷上四丁目 5234 他）
名称 かながわ綾瀬のへそ祭り
主催 実行委員会

◆ 祭りの名称アンケート

期間：令和7年10月17日から11月7日まで
応募数：451件

- ・かながわ綾瀬のへそ祭り 168件
- ・あやせ市民まんなか祭り 163件
- ・神奈川あやせ中央祭り 120件

◆ 主な実施内容

- ・綾瀬音頭などの披露
レクリエーション協会による踊り。綾瀬音頭を始めとした踊りの魅力を次世代に継承していくため、来場者と一体となって踊る
- ・神輿
綾瀬市内の各神輿会による神輿
- ・来訪記念カード
来訪者に対して1日限定で記念カードを配布
- ・綾北 Mercury winds によるオープニングセレモニー
- ・露店、キッチンカー
- ・その他、市民が参加する催事等





資料 1-2 令和8年度当初予算案と主要事業（「育てる」に対する政策）

あやせ子育てスタート応援給付金【新規】

（予算の概要 P.23）

◆ 予算額 8,385千円

◆ 事業のねらい

「綾瀬で子育てをしたい」と思える子育て施策の一つとして、これから子どもを産み育てようとする世代の方（妊婦）に対し、子育てのスタートを応援するメッセージを伝えるため、妊娠届出時に給付金を支給します。

◆ 内容

子育て支援のための市独自の給付金を、子育てがスタートする時期である妊娠中に給付します。

対象者：妊婦 559 人（見込み数）

給付方法：現金

給付額：15,000 円

◆ セールスポイント

- ・国による妊婦のための支援給付（妊婦支援給付金）とは別の、市独自の給付金です。
- ・妊娠中に給付することで、妊婦が出産までの期間やその先の子育てを楽しみながら過ごせるよう応援します。
- ・綾瀬市で子育てをするために妊娠中に市内へ転入した方にも給付します。





資料 1-3 令和8年度当初予算案と主要事業（「育てる」に対する政策） 生徒会活動支援補助金【新規】

（予算の概要 P. 24）

◆ 予算額 500千円

◆ 事業のねらい

中学生が社会を生き抜く力を身に付け、持続的な社会の創り手・参画者となれるよう、課題を発見し、他の生徒の思いを聞き、解決策を考え、実現に向けチャレンジする機会を提供します。

◆ 内容

各中学校の生徒会に立候補する生徒が生徒会選挙に臨むに当たり、実現したいことを具体的に形にできるよう、各校の生徒会に10万円を限度として補助を行います。

◆ セールスポイント

補助金を利用する生徒会の生徒だけでなく、その他の生徒にとっても、生徒会のアイデアが実現する様を目の当たりにすることで、自分たちの意見が尊重されることや、課題解決に向けた想いが実現できることを実感でき、社会の一員としての意識や行動意欲が向上するきっかけとなります。





資料 1-4 令和8年度当初予算案と主要事業（「稼ぐ」に対する政策）

工業系新市街地の整備【新規】

（予算の概要 P.31）

◆ 予算額 71,632千円

◆ 事業のねらい

綾瀬スマートインターチェンジの交通機能を有効活用し、企業立地による地域経済の活性化や雇用の創出を図るため、土地区画整理事業により都市基盤整備と企業の受け皿となる用地の確保を行います。

◆ 内容

第8回線引き見直しにより、落合北部・吉岡東部地区が一般保留区域に位置付けられたことから、事業の具現化を目指し、土地区画整理組合設立準備会に対し、組合設立に必要な技術的・財政的支援を行います。

【整備地区面積】

・落合北部・吉岡東部地区 約 14.6ha

【実施内容】

組合設立準備会助成（助成率 100%）

- ・調査設計業務（基本設計、事業計画作成等）
- ・事務費（準備会運営等）

◆ セールスポイント

市街化区域が増加することにより、土地家屋の固定資産税と都市計画税の増収が見込まれ、新規立地企業の雇用が確保されることによる定住促進も期待されます。





資料 1-5 令和 8 年度当初予算案と主要事業（「支える」に対する政策）

リチウムイオン電池等の常時回収拠点の整備【新規】

（予算の概要 P. 42）

◆ 予算額 2,310千円

◆ 事業のねらい

近年高まるリチウムイオン電池の混入による収集車や焼却施設での火災リスクに対し、あらゆる電池を 24 時間排出できる場所を整備することで、市民の皆様が適切に排出し、安心して生活できるようにします。

◆ 内容

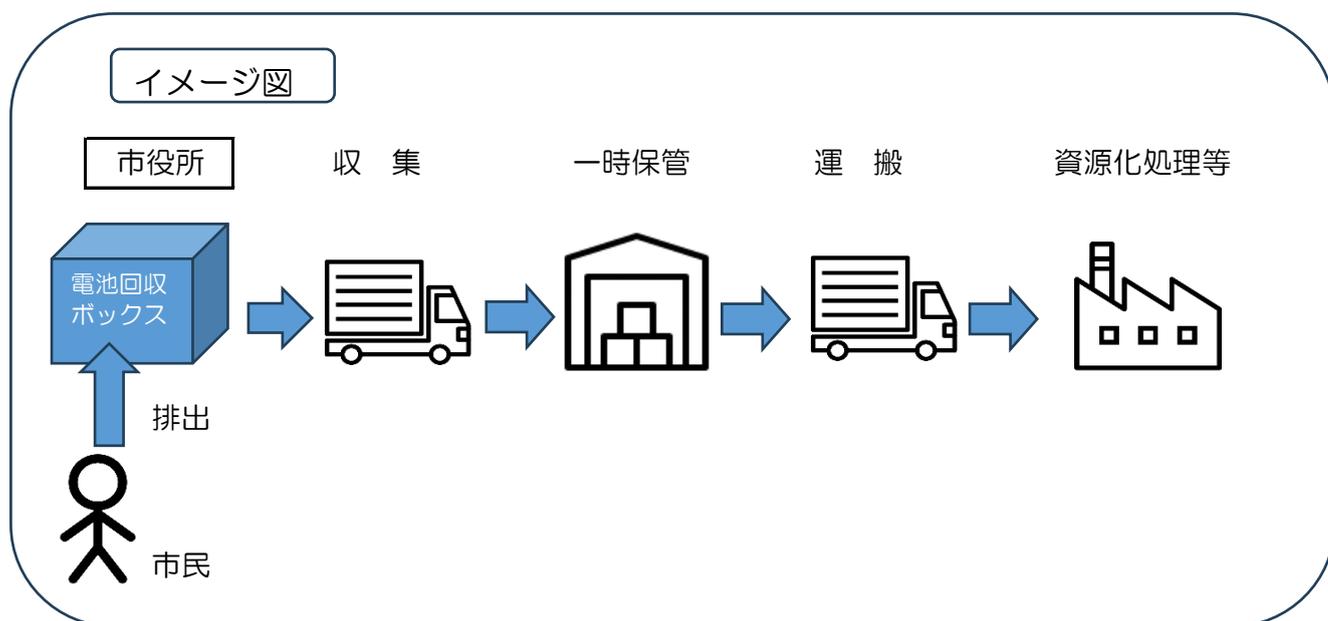
変形・膨張した電池等を含む様々な電池や電池内蔵型の小型家電類を 24 時間排出できる AI 搭載型専用回収ボックスを市役所に設置します。

◆ セールスポイント

- ・膨張している充電電池を家などに溜めることなく捨てることができます。
- ・これまで市で処理することができなかった、膨張した充電電池などを全て処理することが可能となります。



リチウムイオン電池等の常時回収拠点の整備について



～これまでの課題～

- ①一般社団法人JBRCの対象品以外の充電電池は、処分先がなく市でも保管するしかなかった。
- ②地域収集する電池の種類が限られていたり、ボタン電池などは捨て先が異なり、市民にとってわかりにくい状況だった。

⇒全ての電池類(電池内蔵型小型家電を含む)を回収できるボックスを設置

～連携までの経緯～

令和7年3月 JFEエンジニアリング(株)より県内の全自治体にアンケートを実施。アンケートはメールやホームページのお問合せ欄などから行われる。同アンケート内に、充電電池類の回収実証実験の案内があり、課題と考えていた本市として賛同の回答。

令和7年4月 アンケート回答に基づきJFEエンジニアリング(株)より連絡。実証実験について内容を伺い、6月末からの1週間と、8月に2週間の実証実験を行う旨合意。

令和7年7月 綾瀬市小園地域で可燃ごみ収集中の収集車から発火、火災発生。のちの調査で、出火原因は「可燃ごみに混入されたモバイルバッテリー」と特定される。

令和7年9月 実証実験時のアンケート内容「種類が複雑で捨て方がわからない」という多数の声を受け、回収ボックスの開発提案と膨張した充電電池などを含む回収体制について検討を実施。処理先が見つかったため、令和8年度予算に計上。